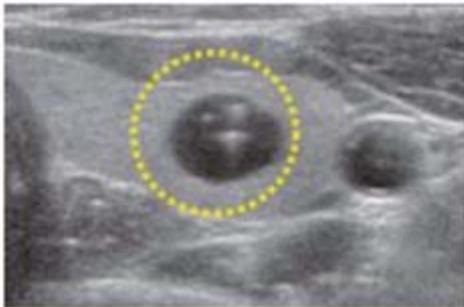


---

## QA28 「のう胞」、「結節」とはなんですか

---

「のう胞」とは甲状腺にできた体液のたまった袋状のものです。のう胞の中身は液体のみで、細胞がないためがんになることはありません。健康な方でも見つかることの多い良性のもので、乳幼児には少なく、学童期～中高生に多く見られます。また、のう胞は数やサイズが頻繁に変わります。県民健康調査の甲状腺検査では、のう胞の大まかなサイズ（複数ある中ではその最大のもの）をお知らせしております。



「結節」は「しこり」とも呼ばれ、甲状腺の細胞が変化したものです。超音波検査機器の精度が上がったことで、見つかることが多くなっています。結節には良性と悪性（がん）があり、多くは良性です。一般的に 5.0 mm以下の結節は、針を刺して直接細胞を検査する穿刺吸引細胞診（せんしきゅういんさいぼうしん）などの詳しい検査を行わないことが推奨されています。県民健康調査の甲状腺検査でも、それに準じて 5.0 mm以下の結節については二次検査は行わず、2～5 年後の超音波検査（一次検査）にて経過観察を行うこととしております。もちろん 5.0 mm以下であっても二次検査を受けたほうが良いと判断された場合は B 判定としています。



なお、のう胞の中にはのう胞の中に結節を伴うものがあります。県民健康調査では、これをのう胞とせず、結節と判定しています。

---

出典：福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センターウェブサイトより作成

出典の公開日：2015年3月31日

本資料への収録日：2015年3月31日